

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100023		
法人名	株式会社 ヘルスプロモーション 青森		
事業所名	グループホーム まりあ		
所在地	青森県青森市大字浅虫字内野53番2		
自己評価作成日	令和3年7月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に生まれ、温泉地・水族館・海水浴場等、観光施設に囲まれた環境に立地しています。現在は地域行事への参加や施設内行事への招待を見送り、新型コロナウイルス感染予防に努めています。コロナ禍で密にならないよう、施設内行事を工夫し「桜祭り食事会」「ドライブ」「誕生会」を実施しました。また、地域住民との繋がりが途切れないよう、災害・事故等の協力体制を整えています。セラピー猫「まりんちゃん」が、コロナ禍で外出自粛の利用者様の癒しとなっています。母体が地域の中にある病院のため、身体状態の変化に24時間体制で対応ができ、健康相談等も気軽にすることができます。特性を活かして重度化や終末期・看取りの介護も行っており、利用者様が最期まで安心して過ごすことができる体制を整えています。職員はサービス質の向上を図るため、力量に応じて外部研修へ参加して内部研修へと繋げ、全職員で勉強しています。また、職員は利用者様やご家族の思いを大切に、希望が叶えられるよう、利用者様が穏かで楽しく充実した日々を過ごせるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年1月12日		

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて職員全員で話し合い、理念の「地域の中で自分らしく生き生きと」を掲げて玄関・事務所に掲示し、日々念頭に置きながら業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会・町内清掃・桜祭り・琴慰問・ねぶた祭り等に参加・慰問を受ける等、地域と関わり、日常的に交流している。新型コロナウイルスが流行してからは、感染予防策として交流が一旦途絶えているが、関係性は途切れていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談は管理者が窓口となり、いつでも受け付けている。現在はコロナ禍により、運営推進会議や町内会との交流が行われていない。写真や「まりあ新聞」等で支援方法や活動を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外部との接触は極力回避している。運営推進会議は開催されず、取り組み状況や実践状況の資料を市町村へ報告し、ご意見をいただき、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に毎回参加していただき、情報交換や困難事例の相談・助言を受けていたが、コロナ禍により、電話・文章等で助言・相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修で繰り返し勉強し、身体拘束の弊害を理解して、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。生命に関わる理由で身体拘束を行わなければならない時は、家族へ十分な説明を行い、同意をいただいている。玄関や居室には施錠せず、チャイムで外出傾向を察知している。危険性がある場合はご家族に説明し、出入り口を施錠することがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修で繰り返し学習し、虐待防止の理解を深めている。虐待が見逃されることがないように、職員間で注意し合える環境作りに取り組んでいる。虐待は絶対に行わないという意識でケアを提供している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度について、内部・外部研修で勉強し、理解を深めるように努めている。また、必要があれば、利用者様やご家族へ説明し、管理者が窓口となって支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が重要事項説明書を基に、ケア方針や取り組みについてわかりやすい言葉で説明し、同意を得ている。解約の際も同じく十分な説明を行い、不安を生じさせないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望を出しやすいよう働きかけている。利用者様の意見や要望は日々の会話から察するように取り組んでいる。利用者様やご家族からの意見・要望については速やかに改善策を話し合い、今後活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンス等で職員の意見を聞く機会を設け、意見が反映される仕組みを整えている。また、利用者様と職員が信頼関係を築けるよう、日々の関わりの中から、利用者様の意見を職員が汲み取り、運営に反映させるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の状況や職員の日々の努力、実績や勤務状況を把握し、年2回、健康診断を実施している。母体が医療法人であり、いつでも受診できる体制になっている。職員の資格獲得に向けた支援に力を入れ、資格取得の整備、向上心を持って仕事に取り組めるような環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を確認し、一人ひとりの力量を把握して、その職員のレベルに合った外部研修を受講させている。受講後は報告書を提出し、内部研修で職員全員に内容を伝え、周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外部との接触は極力回避している。外部研修に参加する機会があり、同業者との意見交換やサービスの向上、育成に繋げるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ダイニングでお茶を飲みながらリラックスした状態で、入居前に本人・ご家族の要望等を伺っている。身体状態の確認の他、本人の思いや希望、困っている事等に耳を傾け、今までと変わらない生活ができるように努めている。また、職員間で本人の思い・ご家族の思いの周知徹底に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、利用者様の精神・身体状況を確認しており、ご家族の思いや希望、ニーズを把握するように努めている。相談を受ける際は、わかりやすい言葉や笑顔で接し、ご家族から話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談受付の時点で内容をよく把握し、本人・ご家族が何を必要とされているか、サービスを見極め、その中で対応できる事を伝えながら、助言や相談を行っている。必要に応じて、他のサービス機関に移行する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的な立場に置かず、何か作業を共に行う時は寄り添い、理解し、共に支え合う関係を築いている。利用者様のできる事・できない事を見極め、協力しながら生活する支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙の他、写真付きホーム新聞を添えて状態を伝えている。コロナ禍のため、面会規制を設けているが、ご家族にはその都度状態を伝えている。場合によっては電話で状態や様子を伝え、情報交換を行いながら、共に支える関係を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・ご家族からの話や生活歴により、馴染みの場所や友人を把握し、継続して交流ができるようにしている。コロナ禍のため、密を避けて馴染みの場所にドライブへ出かけている他、友人に電話で近況を伝えたり、ハガキを出す等、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係性を理解して、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。利用者様同士の会話には職員が介入せず、見守っている。また、利用者様それぞれの得意な事を見極めて役割を分担したり、一緒に行う等、良い関係性を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談・支援に応じる姿勢を示し、今まで築いてきた信頼関係を大切に、継続するように努めている。退去先の関係者に対してアセスメント・生活歴を詳細に伝え、環境や暮らし方の継続性に配慮していただけるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様と個々に向き合う時間を作り、一人ひとりの日々の暮らし方や会話の中から、思いや希望をくみ取る努力をしている。困難な時はご家族から情報収集を行ったり、職員間で話し合い、利用者様の視点に立って意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やこれまでのサービス機関等より情報収集し、生活歴やライフスタイル、個性、価値観を大切に把握している。プライバシーに十分に配慮しながら、利用者様の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴・検査データ・食事・水分摂取量・排泄状況・顔色・皮膚状態・服薬状況・日常生活の観察等で、心身の健康状態の把握に努めており、日々の生活を通して「できる事」「できない事」の現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ありのままの事実を収集し、介護計画作成時は評価を行い、再度アセスメントをしている。利用者様、ご家族の意見や希望を重要視した介護計画書を作成するために、職員間でケアの方針を話し合い、身体状態の変化には速やかに対応し、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の暮らしの様子や気づき等を詳細に個別具体的に記録し、職員間で情報を共有している。日常の食事量やバイタル、排泄と個別に記録して対応している。日々のケアが介護計画に沿って実践されているか、月1回の要点として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人であり、必要に応じて、受診の付添い・グループ内の施設への転居等も考慮し、その時々ニーズに柔軟な対応を行っている。コロナワクチン接種も医師・看護師が来園し、いち早く2回摂取終了している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、地域住民の交流が行えず、感染予防のため外部との接触を控えている。地域での壁画の展示は依頼を受けて作成し、交流が途切れないように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の既往歴を把握しており、母体が医療法人であるため、24時間主治医に連絡が取れる体制になっている。また、本人・ご家族の希望により、他医療機関へ通院したり、歯科医院と連絡を取り合い、往診できる体制を整えている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化があった時は、すぐに看護師に伝える体制を整えている。状態についても連絡ノートで職員全員に周知している。週1回の婦長による健康相談・月2回の往診で利用者様の身体状態を診ていただき、病院が近くにあるため、特変時は主治医・看護師が駆け付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、医療機関との情報交換を行い、施設内で対応可能な段階で、早期退院に向けた話し合いやご家族と話し合いを行う体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合の対応及び看取りに関するホームの方針を明確にし、早期から話し合い、意思の統一を図っている。利用者様・ご家族の意思・希望に沿った対応を心掛け、看取りのケアに対する不安は看護師・主治医に相談し、連携を密にしている。状況の変化がある時は、方針について随時話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は応急手当・初期対応マニュアルを作成して事務所に掲示し、的確に対応できる対応を整えている。外部研修・内部研修により、職員は応急手当・救命救急の研修・訓練をして身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回、利用者様、職員、地域防災協力員と実施している。現在はコロナ禍のため、密を回避しながら、利用者様と職員で実施している。夜間想定や日中想定があり、利用者様の身体機能に合った誘導の仕方を全員で話し合っている。また、設備点検を定期的に行い、食品、飲料水の備蓄も整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの言動を受け入れて共感し、尊敬した言葉遣い、尊敬の眼差しで対応している。研修で「接遇とコミュニケーション」等の勉強を行い、施設全体で日々の確認や改善に向けて話し合い、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員個々の力量に応じて、思いや希望を表せるように働きかけている。言葉で意思表示ができない場合は、日々の暮らしの中から思いをくみ取ると同時に、表情や反応から読み取るようにしている。また、利用者様が自己決定しやすい場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方に決まりはなく、一人ひとりの生活のペースに合わせた取り組みを行っている。希望時は買い物や散歩等、その日の天候や身体状況にも配慮して支援しているが、コロナ禍のために外部との接触は控えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に好みの洋服をご自身で選んで着ていただいたり、自分で選べない利用者様には一緒に選んだり、合わせたりして決めている。ボタンの掛け違いや乱れには、さり気なく手直しをしている。化粧を日課としている利用者様への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回の嗜好調査を実施し、希望や意見は献立作りに取り入れている。旬の食材を取り入れ、食生活から好き嫌いを把握している。食材の下準備や盛り付け、茶碗拭きを職員と一緒にいき、楽しみながら食事することを心掛けている。また、写真で記録して課題を探ったり、食事の向上に繋げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立となっている。食事・水分摂取量を個別に記録し、把握に努めている。普通食が摂れない利用者様には、刻み食・ミキサー食を提供している。また、見た目や盛り付けの工夫している他、食欲のない方には時間を調整し、食欲がわくよう工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に合わせた促し方・声掛けにより、全利用者様が口腔ケアを行っている。介助を必要としている利用者様は、全介助で行っている。週1回の義歯消毒・歯科往診時の口腔内の清掃指導を受け、口腔ケアの大切さを理解している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を個別に記録して、職員全員が状況を把握している。自力排泄が困難な利用者様には、プライバシーに配慮したトイレ誘導、オムツ交換を心掛けている。自立に向けた支援を行い、紙オムツや紙パンツの使用継続については随時見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排泄表の記録から利用者様一人ひとりの排泄リズムを把握し、自然排便に繋がるよう、乳製品や果物等を提供している。また、歩行訓練や腹部マッサージ等を行い、自然排便を促す工夫を個別に行っている。下剤を服用の利用者様の状況を観察し、健康相談を通じて指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	天然の温泉入浴ができ、午前と午後の入浴となっているが、希望があれば時間を変更している。機能低下した利用者様にはリフト特殊浴を行っている。個別の入浴方法を理解し、温度や洗身タオルの質等をその方に合わせ、最も心地良い入浴となるように工夫して行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の日常生活を把握し、安心して眠れるように声掛けを工夫したり、眠れない方は原因を探り、不安解消に努めている。また、側に付添って話をするなど、安眠に繋げるように支援している他、日中の過ごし方から工夫して夜間へ繋げている。眠剤はなるべく使用しない意向である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報により、利用者様の薬を全職員が把握している。誤薬等の事故防止のために服薬チェック表を作成し、服薬介助後に確認印を押すことになっている。また、常に身体状態の観察に努め、変化があった場合は主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活から利用者様の得意な事、好きな事を見極めている。一人ひとりに合ったお手伝いを役割とし、レクリエーション等で活かして、楽しみを持てるよう支援している。行事ではビール等のアルコールを提供し、冷蔵庫にはご家族持参の個別の飲み物・食べ物保管している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は、天気の良い日は町内の散歩やドライブに出掛けている。歩行困難の方はリフト車を使用して、負担がないように支援している。日々の会話の中から思い出の場所・行きたい所を把握するように努めていたが、現在は感染予防のために戸外への外出は自粛しており、施設敷地内で外気浴を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のために買い物での外出は自粛している。施設職員が必要な物を買出しして、本人にお渡ししている。ご家族からの入金 の都度、金銭出納帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、事務所からいつでも電話を掛けられるようにしている。プライバシーが守られるように、離れた場所から見守り、気兼ねなく通話していただけるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には手すりを設置し、車椅子同士ですれ違いができる広さになっている。リビングには大きな窓があり、自然の光が入ることで朝・夕を感じることができる。空調を常に調整し、四季を感じていただけるような壁画作りに取り組んでいる。職員の足音・台所の雑音には注意を払い、不快な音にならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳み敷きの小上がりがあり、昼寝をする等、多目的に利用している。また、セラピー猫がおり、一緒に過ごして利用者様の癒しとなっている。気の合う利用者様同士、大きな窓から外の景色を眺めたり、ゆっくりテレビを見たり、マッサージを受ける等、環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物や毎日使っている物を持って来ていただけるようにしている。生活動線を良好に保てるよう、家具の配置を利用者様と一緒に考えている。居室にはご家族の写真・貼り絵・習字・カレンダー等、好みの装飾を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの過ごし方や身体状態を把握して、安全な生活動線を考えて環境作りを行っている。場所がわからなくなる利用者様には、その方に合った目印を付けたり、布団を床に敷く等、安全に配慮している。環境面では常にリスクマネジメントを考えたケアの取り組みを行っている。		